

S-face

特別号

SFC makes the future through researches

SFC Open Research Forum 2016

慶應義塾大学SFC研究所



新たな「1年目」を迎えたSFCから 垣間見えた進化と未来像

11月18日(金)、19日(土)の2日間にわたって開催されたSFC Open Research Forum 2016では、SFCで日夜取り組んでいる研究の展示と発表、その研究を体感できるワークショップ、経済や行政など各界の論客を招いたトークセッションなどを実施。キャンパス開設26年目の今年、四半世紀を経て新たな「1年目」を迎えたSFCの進化と未来像が垣間見えました。

Hiroya Tanaka Laboratory 田中浩也研究室

看護・農業と
ファブをつなげます



浅野 義弘さん
(政策・メディア研究科 修士1年)

近年、3Dプリンターやレーザーカッターといったデジタルファブリケーションが注目されています。研究室では、それらを用いて作られたものを社会とつなげることに取り組んでいます。ORFでは、3Dプリンターで制作したヘルスケア用品「膿盆」などを展示しました。

Laboratory of Prof. Atsushi Okuda 奥田敦研究会



イスラームを知って、
イスラームと向き合う！

アラブ・イスラーム世界の研究拠点との連携をはかりながら、総合的かつ実践的な研究を展開。15周年を迎えたアラブ人学生歓迎プログラム(ASP)、神奈川県との「ムスリム接遇人材育成プログラム事業」、空港総合研究所との「アッサラーム・アクション」、イスラームとグローバルガバナンス研究やアレppo復興支援などのプロジェクトを発信しました。

奥田 敦教授
(総合政策学部)

Omae Lab 大前研究室

いつでも・だれでも・
どこへでも行ける社会へ



佐藤 周也さん
(政策・メディア研究科 修士2年)

自動車の自動運転は、実用化に向けた精力的な研究開発が進められています。研究室では、オンデマンド型自動運転、隊列走行、遠隔操縦等の研究を行ってきました。最近の取り組みである「個人適成型一般道レーンキープアシスト」「ラストワンマイル自動運転」などを紹介しました。

Atsushi Aoyama Laboratory 青山敦研究室

ヒトの意識の物理的な
基盤を解明する



小山 雄太郎さん
(環境情報学部3年)

研究室では、脳情報の計測と解析の観点から脳科学に関する基礎研究を行うとともに、脳情報通信や医療・健康、メディアへの応用を目指しています。今回は、研究内容をポスター展示するとともに、脳波計を使用したデモンストレーションを行いました。

Premium Session Tsuruoka Science Park started – The small town in Yamagata Prefecture is now receiving world's attention 〈プレミアムセッション〉 鶴岡サイエンスパーク、始動。 ～今、世界から注目を集める人口13万人の山形県鶴岡市



慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス内に設立された先端生命科学研究所(IAB)では、最先端研究に加えて企業の設立にも注力しています。この「鶴岡の奇跡」はいかにして成し遂げられたのか、IAB所長の富田勝教授や日本有数の企業の経営責任者らを迎えて議論を行いました。

Ikeda-lab 池田靖史研究室



研究室では、20世紀の建築・建設を主導してきた「工業化建築技術」から情報技術を基盤とした「情報化建築技術」への発展を目指しています。ORFでは、IoT化された建材とAR^(※)による施工作業支援を組み合わせた未来の建設現場を「digital wood 2.0 -Smart Wooden Building Block」として展示しました。
※Augmented Reality(拡張現実)

建築のデザインを
自由に！

情報技術を使って
建築を考える



阿部 祐一特任助教
(政策・メディア研究科)



池田 靖史教授
(政策・メディア研究科)

実行委員長
中澤 仁



SFCの研究成果が 正しい未来をもたらす

21回目となるORF2016の今年のテーマ「かえる。」には、今年創設26年目のSFCが四半世紀を経て、新しい1年目を踏み出すために初心に「帰る」、SFCに新しい知が「孵る」、その知を社会へ「還す」、という複合的な意味があります。そして100年後、その時の最新技術の原型が今年のORF2016にあったと「振り返る」ことができたらという期待も込めています。

年に1回の集大成ということで、どの学生もORF2016へ力を注いでいます。今年は各ブースの特色がさらに強まり、来場者へ分かりやすく伝えるための工夫も多くなされていました。また、VR(Virtual Reality/仮想現実)やデジタルファブリケーションを使用した展示が多いのも今回の特長です。

現実の問題を的確に捉え、それを解決するための研究——。そうしたSFCの実学による研究成果が社会を正しい方向へ導くものであるとすれば、ORF2016は「正しい未来をもたらすもの」であると言えるでしょう。

Profile

慶應義塾大学環境情報学部准教授。同大学大学院政策・メディア研究科博士課程修了。街に埋もれて見えない無限の情報を採集するのがライフワークのひとつ。専門はユビキタス・モバイルコンピューティング、センシングシステムなど。

ORF2016 Webサイト: <http://orf.sfc.keio.ac.jp/2016/>

詳しくはWebサイトへ
詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務所 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp